助成成果報告書　執筆要領

2024 年 2 月 26 日改訂

1. 助成成果報告書について

・公益財団法人自然保護助成基金から助成金をうけて実施された研究/活動の成果のみを記入すること。
・自然保護上、情報を公開すると問題があるもの（密猟者に狙われる可能性のある希少生物の生息地など）の記載は控える。
・報告書の著作権は著者に帰属する。
・様式（A、B、C、海外 03）と報告書本文（以降、「本文」）原稿、図表ファイルの 3 種を提出すること。
提出する様式はカテゴリー毎に以下の通りとする。

・国内研究助成：様式 A
・国内活動助成：様式 B
・海 外 助 成 ：著者が日本語使用…研究プロジェクトは様式 A、活動プロジェクトは様式 B。
著者が英語使用…様式 C＋海外 03（日本人メンバーが要旨を和訳したもの）
・協 力 型 助 成 ：研究・活動ともに様式 A

※参考用：過去の助成成果報告書は以下 URL に掲載。
https://www.pronaturajapan.com/archive/pronatura/index.html

2. 体裁

◆本文原稿・様式共通の体裁

1)フォント

・以下フォントの使用を推奨する。

日本語：MS 明朝、サイズは 10.5～11 ポイント。
英数字：Times New Roman、半角。
章タイトル：MS ゴシック。

2)記号

・本文中の句読点は、全角のカンマ（,）とピリオド（.）、コロン（：）とセミコロン（；）を使用する。
・括弧は、日本語の場合は全角、英文の場合は半角で記入する。
・上記以外の記号は全て半角にする。
・100 cm、 99 %など単位記号の前は半角スペースを入れる。演算記号（+, -, ×, ÷, =）は前後に半角スペースを入れる。特殊文字（文字化けを起こす可能性のある機種依存文字あるいは環境依存文字）は使用しない。

・緯度・経度は、「北緯 42 度 15 分」または「42°15'N」のように表記する。
・①②などのマル数字はなるべく使用しない。

3)学名

・学名（属名＋種小名）はイタリックで記入する。
・属名の先頭一文字を大文字とし、あとは小文字で記入する。
・亜種（subsp.)、変種 （var.)、品種（f.）などは立体で記入する。
・属名より上の分類群名は立体で記入する。
・俗名（普通名, common name）や和名は、全て立体小文字で記入する。ただし、固有名詞になっている場合は、先頭のみ大文字にする。
・命名者名と命名年は正体で記入し、命名者名は、頭文字のみ大文字にする。
・和名が存在する種名は、初出は和名と学名を記載し、2 回目以降は和名のみ記載する。

（例） *Rhodeus ocellatus kurumeus*
Pyropia tenera var. *tamatsuensis*
Pyropia yezoensis f. *narawaensis*
Ginkgo biloba L.1771
Ryukyu scops owl ←俗名かつ固有名詞

◆本文原稿の体裁

・本文原稿は本文テキスト（Word テキストファイル）のみ記入。タイトルや著者、キーワード等は本文に含めず、次の「3.様式について」に従って記入する。
・A4 の用紙を縦長に用い、21 字×40 行×2 段組み（1680 字）とする。※推奨。
・タイトル、要旨、図表等を含めた際に、刷り上がりが様式 A、C は 8～12 ページ程度、様式 B は 2～4 ページ程度になるようにする。
・章は I. II. ……, 節は 1. 2. ……, 項は 1） 2） …… とする。
・注は原則として用いない。
・姓か名が一文字の日本人名を記載する場合、姓名間に全角スペースを空ける。
・併せて、「4. 引用・文献リストについて」も参照すること。

3. 様式について

◆タイトル

・申請プロジェクト名と一致することが望ましいが、プロジェクトの成果を最も適切に要約したものであれば、必ずしも一致しなくてもよい。
・英語タイトルは以下の通りとする。

・タイトルの先頭一文字と固有名詞各単語の先頭一文字は大文字、その他は小文字。
・タイトル末にピリオドを打たない。

◆グループ名

・法人格名と団体名の間には半角スペースを空ける。(例：NPO 法人 森を守る会)。

・特定非営利活動法人の表記は、以下に統一する。

日本語名：NPO 法人 〇〇、認定 NPO 法人 〇〇　英語名：NPO 〇〇、Authorized NPO 〇〇

・英語団体名の各ワードの先頭は大文字にする（in、on などは小文字)。

例：NPO 法人 森を守る会 → NPO Forest Protection Association

◆著者

・国内研究助成

プロジェクトのメンバーであり、その成果に対し学術的な貢献のあった者とする。ただし、顕著な学術的貢献がある場合は、プロジェクトメンバー以外も著者に加えてもよい。

・国内活動助成

プロジェクトメンバーが多数の場合、プロジェクトの推進にあたり中心的な役割を果たした者に限る。

・日本語表記

日本人名で姓か名が一文字だけの場合、姓名間に全角スペースを空ける。

（例：島　啓太、長谷川　雄、勝村　遼など)。

外国人著者名の場合、名姓順で名姓間に半角スペースを空ける。姓は大文字、名は最初の一文字のみ大文字とする。(例：Daniel SMITH)。

・英語表記

日本人著者名のローマ字表記は姓名の順とし、姓名間に半角スペースを空ける。姓は大文字、名は最初の一文字のみ大文字とする。(例：TANAKA Taro など)。

外国人著者名の場合は名姓順とし、姓名間に半角スペースを空ける。姓は大文字、名は最初の一文字のみ大文字とする。(例：Daniel SMITH)。

◆所属機関

・「～大学～学部」「～大学～研究所」のように記し、それよりも細かい所属は記入しない。教授、研究員などの肩書は記入しない。

・著者名の右側に上付き数字を添え、所属機関の番号と対応させる。同じ所属先の著者には同じ数字を振る。グループ名と所属機関が同じ場合は記入しない。

・法人格名は略記しない。例：(公財) →（公益財団法人)、(株) →（株式会社)。

・英語表記は各ワードの先頭を大文字、その他は小文字（in, on などは小文字)にする。

◆要旨

・図・表や特定の文献への直接的な言及は避ける。

・Summary（英語要旨）は、日本語要旨に対応させる。

◆キーワード

・本文の内容を的確に示す 4～6 個のキーワードを、日本語および英語で記入する。

・日本語は五十音順、英語はアルファベット順に並べる。
・タイトルに用いている語は記入しない。
・英語キーワードは全て小文字で記入する（固有名詞のみ先頭を大文字にする）。

・著者の造語、一般性のない語、過度に長い複合的な語などは使用しない。
・学名の命名者名はキーワードに入れない。

4. 引用・文献リストについて

◆引用

・本文中の引用は、「・・・(著者名 2015)」と記載する。著者名と年の間には半角スペースを空け、「,」等は入れない。

例：(佐藤 2015)，(Smith 1994)

・複数の論文を並列して引用する場合は、論文を全角カンマで区切る。

例：(佐藤 2015，Smith 1994，佐藤・鈴木 2015)

・著者が複数の場合の引用は、以下の通りとする。

著者 2 名：著者名が日本語の場合は「・」、英語の場合は「and」で区切る。
例　(佐藤・鈴木 2015)，(Craig and Trail 1994)
著者 3 名以上：著者名が日本語の場合は「ほか」、英語の場合は「et al.（立体）」として、筆頭著者名と共に表記する。
例　(佐藤ほか 2015)，(Welbergen et al. 2008)

・新聞記事を引用する場合は、「・・・(新聞紙名 発行年)」とする。
・未発表や投稿中などの論文を引用する場合は、以下の通りとする。

※二重投稿の可能性がある場合は、「7. 二重投稿の恐れについて」を参照すること。

・未発表：(著者名 未発表)，(著者名 unpublished)
例　(佐藤 未発表)，(Craig unpublished)
・投稿中：(著者名 投稿中)，(著者名 submitted)
例　(鈴木 投稿中)，(Smith submitted)
・印刷中：(著者名 印刷中)，(著者名 in press)
例　(田中 印刷中)，(Trail in press)
※印刷中の論文の場合、文献リストにも記載する。

引用漏れに注意

文献リストにあるのに引用がない、引用はあるのに文献リストにない、ということがないようにする。

◆文献リスト

・文献リストは「文献」というタイトルで、本文の後に付ける。頭にローマ数字等の番号は付けない。
・文献の著者名は以下の通りとする。次の「基本例」も参照すること。

・日本語、中国語、韓国語：フルネーム姓名順は各国の表記方式に倣う。
・日本人名が 3 文字の場合、あるいは 4 文字で姓または名前が一文字の場合：姓名間に全角スペースを開ける（例：島　啓太、長谷川　雄）。
・英語：姓名順。姓ファーストネームのイニシャル（ミドルネームのイニシャル）。
（例：Taro Tanaka の場合 → Tanaka T）

・文献の配列順序は以下の通りとする。

・日本語文献、欧語文献に関わらず、筆頭著者名（姓）のアルファベット順に並べる。
筆頭著者が同一の場合、以下の規則に沿って並べる。
1. 筆頭著者の単著文献を年代順に並べる。
2. 次に、計 2 名（筆頭著者・第 2 著者）の文献を、第 2 著者名のアルファベット順かつ発行年順に並べる。
3. 次に、計 3 名以上の文献（筆頭著者・他 2 名以上）の文献を、第 2 著者名のアルファベット順に関わらず発行年順に並べる。
・同一著者名かつ同一発行年のものが複数ある場合は、引用順に年号の後に a, b, c…を付して並べる。
・以上の規則を例で表すと、以下の通りとなる。

A 2001
A 2023a
A 2023b
A and B 2020
A and C 2005
A, D, E, B, C 1990
A, B, C, D 2020

・文献名や雑誌名は略記しない。
・英語文献の著者名が多い場合には、著者名の末尾部分を「et al.」で省略することができる。
例： A, B, C, D, et al. 2020. ・・・
・英文の論文タイトルは、固有名詞を除き、最初の 1 文字および副題の最初の 1 文字のみを大文字とする。雑誌名や書籍名はイタリックにし、単語ごとの頭文字を大文字にする。
・学術誌掲載論文は、論文の最初と最後のページを示すこと。
・インターネットサイトを引用する場合、ウィキペディアやブログからは引用しない。

・基本的な文献の書き方は以下「基本例」の通りとする。

日本語文献リスト・基本例

号数がある場合記入

・学術誌

著者名[スペースなし]刊行年．[スペースなし]タイトル．[スペースなし]雑誌名．[スペースなし]巻(号)：開始ページ-終了ページ．

（例）合田　録・高柳　敦 2008．シカの利用頻度が草本群落に及ぼす影響．森林研究 77：35-41.

・書籍

著者名[スペースなし]出版年．[スペースなし]タイトル．[スペースなし]出版社.

（例）増沢武弘 1997．高山植物の生態学．東京大学出版会.

章タイトルには「」、書籍タイトルには『』を付ける

・編著

著者名[スペースなし]出版年．[スペースなし]「章タイトル」．[スペースなし]編者名『書籍タイトル』．[スペースなし] 開始ページ-終了ページ．出版社.

（例）漆原和子 1990.「石灰岩地域の土壌」．浅海重夫編『土壌地理学―その基本概念と応用』．177-185．古今書院.

・オンライン資料・記事、インターネットサイト

著者名[スペースなし]刊行年．[スペースなし]タイトル．[スペースなし]URL．[スペースなし]（閲覧日）

（例）環境省 2016．特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（ニホンジカ編・平成 27 年度）．https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-2e/nihonjika.pdf.（2016.8.25 閲覧）

最終閲覧日を記入

・新聞記事

新聞紙名[スペースなし]発行年．[スペースなし]タイトル．[スペースなし]新聞紙名[スペースなし]発行年月日[スペースなし]朝刊/夕刊記事．[スペースなし]URL（オンライン記事の場合記入）．（閲覧日は記入しない）

（例）朝日新聞 2004．深海魚リュウグウノツカイが漂着．朝日新聞 2004.2.2 朝刊記事.

英語文献リスト・基本例

・学術誌

Author.[半角スペース]Year.[半角スペース]Title.[半角スペース]*Journal Name*[半角スペース]Volume: [半角スペース]Start page-Last page.

（例）

雑誌名、書籍名はイタリックにし、単語ごとの頭文字を大文字にする

・著者 1 名

Holdridge LR. 1947. Determination of world plant formations from simple climatic data. *Science* 105: 367-369.

・著者 2 名

姓名順、最後の著者名の前に and を記入

April SO and Thomas CC. 2014. An assessment of submersion as a mechanical control technique of *Pomacea maculata* eggs in southern Florida, USA. *Natural Resources and Conservation* 2: 6-10.

・著者 3 名以上

著者が 3 名以上の場合 and の前にカンマを記入

Welbergen JA, Klose SM, Markus N, and Eby P. 2008. Climate changes and the effects of temperature extremes on Australian flying foxes. Proceedings of the Royal Society B: *Biological Sciences* 275: 419-425.

・同一著者、同一年の文献

Anderson S, Adhikari BS, and Rawat GS. 2014a. Influence of microclimate on the activity of Royle's pika in the Western Himalaya, India. *Zoological Studies* 53: 73-85.

Anderson S, Adhikari BS, and Rawat GS. 2014b. Influence of snow, food, and rock cover on Royle's pika abundance in Western Himalaya. *Arctic Antarctic and Alpine Research* 46: 558-567.

・書籍

Author.[半角スペース]Year.[半角スペース]*Title*.[半角スペース]Publisher. [半角スペース]Place of publication.

（例）Polunin O and Stainton A. 1984. *Flowers of the Himalaya*. Oxford University Press. New Delhi.

・編著

Author.[半角スペース]Year.[半角スペース]Title.[半角スペース]In: Editor.[半角スペース](Eds.)[半角スペース]*Journal Name*.[半角スペース] Publisher. [半角スペース]Place of publication.

（例）Ray C, Beever E, and Loarie S. 2012. Retreat of the American pika: up the mountain or into the void? In: Brodie JF, Post E, and Doak D. (Eds.) *Conserving Wildlife Populations in a Changing Climate*. University of Chicago Press. Chicago, IL.

・オンライン資料・記事、インターネットサイト

Author.[半角スペース]Year.[半角スペース]Title.[半角スペース]Website name.[半角スペース]URL.[半角スペース]（閲覧日）

（例）Cartwright J. 2007. Big stars have weather too. IOP Publishing PhysicsWeb. http://physicsweb.org/article/news/11/6/16/1.（2007.6.26 閲覧）

最終閲覧日を記入

・新聞記事

Newspaper.[半角スペース]Year of publication.[半角スペース]Title.[半角スペース]Author.[半角スペース]Date of publication. [半角スペース]URL（オンライン記事の場合記入）.（閲覧日は記入しない）

（例）The New York Times. 2023. Earth to Hit Critical Global Warming Threshold by Early 2030s. Brad Plumer. 2023.3.20.

5. 図表

◆本文中

・必ずすべての図表を（図 1）（表 1）・・・と本文中で引用する。また、コメント機能、テキストボックスなどを用いて図表の配置を示すこと。本文の末尾にまとめて配置しない。
・本文の中に図表は挿入せず、コメント機能やテキストボックス等で図表の配置を示すこと。
・写真は図として扱う。

◆図表ファイル

・図は個別のファイル（JPEG や PowerPoint 等）で提出すること。
　※Word 本文に貼り付けると図表が圧縮され画質が粗くなるため。
・表は Excel で提出すること。※事務局で表の体裁などを整えさせていただく場合があります。
・画質の粗い図表がないか注意すること。

・図表ごとに、図 1、表 1 のようにそれぞれ通し番号を付ける。
・1 つの図表が複数の部分に分かれる場合や複数の図表を同じタイトルで並べたい場合は a, b,…を付し、本文では図 1a のように言及する。
・様式の「表番号およびタイトル、説明」・「図番号およびタイトル、説明」に、対応する図表のタイトルと説明を記入すること。
・表の数値の記載は、以下「記載例」の通り、小数点位置で揃える。

表の記載例

表 1a　表の記載例

動物種		個体数
哺乳類	ニホンジカ	145
	ニホンイノシシ	106
	ニホンタヌキ	56
鳥類	メジロ	30
	シジュウカラ	15
	ウグイス	4
	ヒヨドリ	2
合計	7種	358個体

表 1b　表の記載例

時間	気温（℃）	湿度（%）
9:30	9.8	56
10:00	10.2	44
10:30	11.0	44
11:00	11.4	47
11:30	12.0	43
12:00	12.5	39
12:30	13.0	43
13:00	13.5	40

小数点位置で揃える

・グラフにおいて、目盛の数値全てが～.0 となる場合は小数点以下を削除する。
・表の項目名と数値の位置が極端にずれないように、見やすさに留意して作成する。
・緯度、経度が図示されていない地図には、原則として縮尺と方位を付ける。
・地図を利用する際には、著作権所有者のルールに従い、権利帰属や出所を明示する。

6. 謝辞

・自然保護助成基金や助成プログラムに対する謝辞は記載しない。
（報告文の全ての内容が、公益財団法人 自然保護助成基金の助成によるため。）他の資金援助団体からの資金提供に関する謝辞の記載も控えること。

7. 二重投稿の恐れについて

・助成成果報告書と全く同じ内容のものを学会誌等に投稿すると、二重投稿と見なされる場合があるため、注意する。二重投稿の判断は当財団では行わないため、学協会の投稿規定に従うこと。不明点は各学協会に直接問い合わせること。

・助成プロジェクトに関する内容で、助成成果報告書の提出前に投稿した論文があり、既に学会誌に掲載されていれば助成成果報告書の文中で引用する。投稿論文と同じ内容のものを助成成果報告書として提出する場合は、末尾等に「本報告書は、○○（著者名、投稿年）に基づき作成した。」等と付記し、書誌事項は文献リスト中に示すこと。
（未発表や投稿中などの論文を引用方法は「4. 引用・文献リストについて」の「◆引用」参照）